



クマバチの恋

国に初夏が訪れるころ、
 神殿には女神であるフジ姫様が降臨なさいます。

フジ姫様は国の守り神でもあります、
 人々からは愛の女神として崇められています。

です。フジ姫様が降臨なさる時期になると
 神殿には敵態勢が敷かれます。

人々が押し寄せることで
 必要な儀式が執り行えなくなるのを
 避けるためです。

クマバチはまだ若い神殿守護兵の一人で、
 この時期の警備に当たるのは三年目です。

想い人の髪を持ってやってくる人々に
 優しく、けれど毅然と、
 神殿には入れないと伝えます。

クマバチの信仰心は神殿守護兵の中でも群を
 抜いており、
 それは彼の真摯な仕事に現れておりました。



クマバチの恋

発行

2018.04.21 水砂糖

クマバチは想いを秘め、
 一生を神殿の警備に捧げようと
 胸に誓ったのです。

三年前のその日、
 風に流れた一筋の髪の毛を、
 クマバチは手に掴まえておりました。
 薄紫に輝く長い髪でした。

溢れる狂おしい感情にクマバチは戸惑いました。
 フジ姫様は人ではなく神様です。
 この想いは叶いません。

フジ姫様はいつもお帰りになられる際、
 人々の目に触れる場所をお通りになります。

彼はいつも
 首から小袋を肌身離さず下げています。
 それは彼の誓いでした。

そんなクマバチには一つ、秘密がありました。

